

社会貢献活動

関東学院大学は校訓「人になれ奉仕せよ」に基づき、社会貢献を教育、研究と並ぶ大学の使命と捉え、様々な社会貢献活動を行っています。

■自治体との連携

1. 横浜市金沢区、横浜市立大学、関東学院の連携推進（キャンパスタウン金沢等）

2008年1月に金沢区、横浜市立大学、学校法人関東学院の連携推進に向けた協定を締結し、「キャンパスタウン金沢」として、金沢区と大学が連携し、大学の知識や施設だけではなく、大学生の発想力や行動力を生かした活力ある町を目指し、様々な活動に取り組んでいます。

また、2014年7月には、金沢区、横浜市立大学、学校法人関東学院を含む8者により、「かなざわ八携協定」を締結。環境未来都市の実現に向けた金沢区エリアの取組みとして、温暖化対策、少子高齢化に対する地域活性化策を協力して取り組んでいます。



<2012年度～2017年度の連携>

- (1) 「サポート補助金」助成による地域の活性化、地域の課題解決を目指した活動、調査研究
 - ・「伊藤博文金沢別邸ライトアップコンサート」（2012年度）
 - ・「金沢区並木地区における居場所活動と地域資源を活用した新たな団地形成の可能性の創出」（2013年度～2014年度）
 - ・瀬ヶ崎小学校「アスレの森」を活用した地域交流活動
(2015年度～2017年度)
 - ・「伊藤博文金沢別邸寄席・講演会・ライトアップ・お正月遊び」
(2014年度～2017年度)
 - ・「金沢絵巻2014」<金沢八景駅前再開発工事用仮囲いによる金沢絵巻の展示>
(2014年度～2015年度)
 - ・金沢区の観光資源の発掘（2017年度）
- (2) 金沢区のイベントへの学生の参加
「金沢まつり花火大会」には硬式野球部の学生が、「平潟湾クリーンアップキャンペーン」にはカヌー部の学生がスタッフとして参加し、会場での募金活動や清掃活動を実施（2013～2017年度）
- (3) 金沢区地元企業の魅力（いいところ）発信プロジェクト
 - ・金沢区の企業を学生が取材し、魅力を伝えるパンフレットを作成
(2013年度より継続実施)
 - ・地元企業×地元大学生の交流会「Cross Meeting」の実施
(2016年度より継続実施)
- (4) キャンパスタウン金沢の普及・啓発

- ・大学祭・いきいきフェスタでのパネル展示（2012年度）
 - ・「いきいきフェスタ」への協力
学生が企業と共同で開発した商品「ちょこっとおやつ」シリーズを紹介し、イベント参加者へ配付（2012年度）
経済学部学生が子ども向けワークショップを実施（2015年度）
 - ・キャンパスタウン金沢フォーラムの開催
学生が企画運営に参加し、チアダンス部、よさこいソーランサークル、JAZZ研究部がパフォーマンスを披露（2013年度）
本学にて同フォーラムを実施。学長による「大学の地域貢献」をテーマにした基調講演の他、学生によるサポート事業活動報告、JAZZ研究部のパフォーマンスを実施（2014年度）
写真部の作品展示および吹奏楽部のパフォーマンスを実施（2015年度）
「地域づくり金沢フォーラム」との合同開催により、学生によるサポート事業活動報告及び地域団体と学生との交流会を実施（2016年度～2017年度）
 - ・金沢観光拠点（名称：マイタウン金沢八景愛称：さわさわ）の運営（2012年度）
 - ・金沢八景駅再開発地区での地域交流拠点「はちのぼ」設置（2014年度）
本学学生による設計・施工
- (5) かなざわ八携協定の推進
- ・「スマートイルミネーション金沢」への協力（2014年度～2015年度）
本学学生と横浜市立大学学生によりワークショップを実施
 - ・「かなざわフォーラム」への協力
本学のパネル展示による紹介の他、本学の人間発達学科学生を中心としたボランティアサークルと横浜市立大学環境ボランティアサークルの協働により、「環境こども工作教室」を実施（2014年度）
 - ・「横浜金沢クラフトビール&グルメフェスタ」への協力（2017年度）
ブースを出展し、廃プラスチックの新しいリサイクル方法を紹介
- (6) 読書活動推進条例施行記念キックオフイベントの共催（2014年度）
本学にてキックオフイベントを実施。読書推進における金沢区の取組みや本学学生、教員、図書館による本学の読書推進活動の取組みを紹介

2. 神奈川県との連携

2018年1月に神奈川県と本学は、緊密な連携と協力により、地域の課題に適切に対応し、地域社会の発展に寄与することを目的として、「連携と協力に関する協定」を締結しました。

また、本学を含む神奈川県内の大学と神奈川県が「理工系分野に係る大学・県連絡会議」において毎年7月に開催する「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」に参加し、理工系分野の魅力等を伝えるためのブース出展、実験・体験コーナーを企画しました。



3. 横浜市との連携

(1) 大学・都市パートナーシップ協議会

2005年3月に本学を含む横浜市内の大学と横浜市が「大学・都市パートナーシップ協議会」を設立し、人材育成、生涯学習、地域経済の活性化、地域課題の解決を4つの柱として様々な地域貢献の取り組みを進めています。2012年度より、横浜市内の28大学が一堂に集まる、最先端の研究、高度で専門的な教育、学生のパワーを活かしたイベント「ヨコハマ大学まつり」に参加しています(2017年度も継続して参加)。

(2) 横浜市工業技術支援センターとの連携

2009年11月に横浜市工業技術支援センターと本学は、活力ある個性豊かな地域産業の振興及び中小製造業の人材育成を目的として、「産学官連携推進に関する協定」を締結しました。協定締結に伴い、定期的な情報の交換や、講師の派遣、地域課題解決に向けた取り組み等を行っています。

(3) 横浜市水道局との連携

2011年2月に横浜市水道局と本学は、相互の信頼関係に基づき、密接に連携・協力し、双方の持つ知的、人的、物質的資源を有効活用することにより、人材の育成、学術研究の向上、地域への還元及び水道事業全体の発展に貢献することを目的として、「連携・協力に関する基本協定」を締結しました。協定締結に伴い、学生を対象としたイベントの周知・参加や技術者研修に関する講師の派遣等を行っています。

(4) 留学生の就職支援に向けた協定

横浜市と関東学院大学、横浜国立大学、横浜市立大学、神奈川大学との間で外国人留学生の就職支援を目的にした連携協定締結しました。



4. 逗子市との連携

2014年8月に逗子市と本学は、双方の持つ知的、人的及び物的資源を有効活用し、人材の育成、学術研究の向上、そして地域の発展の寄与することを目的として、「連携、協力に関する協定」を締結しました。



5. 横須賀市との連携

2014年10月に横須賀市と本学は、土木行政の発展及び実践的な土木技術の向上を図るために、「インターンシップに関する基本協定書」を締結しました。協定締結に伴い、2014年度より3ヶ月間にわたる長期インターンシップの横須賀市で行っています。



6. 葉山町との連携

2015年9月に葉山町と本学は、地域の持続的発展や課題解決、教育研究力の向上を図ることなどを目的として、「連携、協力に関する協定」を締結しました。



7. 小田原との連携

2017年4月に小田原市と本学は、相互の信頼関係に基づき、連携・協力することにより、人材の育成と学術研究の向上を図り、地域の発展に寄与することを目的として、「連携及び協力に関する協定」を締結しました。



8. 鎌倉市との連携

2017年9月に鎌倉市と本学は、密接に連携し、協力することにより、人材の育成と学術研究の向上を図り、地域の発展に寄与することを目的として、「連携及び協力に関する協定」を締結しました。



9. 三浦市との連携

2017年11月に三浦市と本学は、人材の育成と学術研究の向上をもって、地域の発展に寄与することを目的として、「連携及び協力に関する協定」を締結しました。



■ 地域企業等との連携協定

1. 横浜金沢産業連絡協議会との産学連携推進協定

2009年12月に横浜金沢産業連絡協議会と本学は、活力ある個性豊かな地域の産業振興及び人材育成を目的として、「産学官連携推進に関する協定」を締結しました。協定に基づき、双方での情報交換や協議会が主催するPIAメッセへの後援・参加をしています。

2. 神奈川銀行との連携協定

2012年4月に神奈川銀行と本学は、地域における産業経済の振興、地域社会の発展等に寄与することを目的として、「連携に関する包括協定」を締結しました。

3. 湘南信用金庫との連携協定

2015年5月に湘南信用金庫と本学は、産業経済の振興、人材育成・教育の振興、地域社会の発展と貢献に寄与することを目的として、「産学連携協定」を締結しました。



4. 横須賀商工会議所との連携協定

2018年3月に横須賀商工会議所と本学は、相互の連携・協力により、人材の育成と学術研究の向上を図り、地域の発展に寄与することを目的として、「連携及び協力に関する協定」を締結しました。



■地域と連携した授業科目

各学部が学部特性に基づき、地域の自治体や企業と連携した講義を独自に設定しています。

国際文化学部：神奈川の美術館から見る美術史 等

社会学部：地域貢献活動演習、フィールドワーク入門 等

経済学部：神奈川の中小企業 等

法学部：地域創生特論、地域リーダー育成演習、防災・復興演習、コース入門等

人間共生学部：コミュニケーション・プロジェクト、デザイン・プロジェクト 等
理工学部、建築・環境学部：

【神奈川県情報サービス産業協会協力講座】かながわ学（IT産業）

看護学部：母性看護学実習、成人看護学実習等2017年4月1日現在

■課外教育・課外活動

本学では建学の精神に基づき、各学部・部局を中心とした様々な地域連携・社会貢献活動に学生が積極的に取り組んでいます。

1. コンペティション、コンテスト（一例）

(1) ビジネスプランコンペティション

学生がビジネスの発想を競うだけでなく、チームワークをもってプラン発表までこぎつける過程を学ぶ学内イベントで、2003年以来、自治体・マスコミ・企業・卒業生・大学関係者からの後援・協賛を受けて毎年開催しています。審査員には現役の経営者も含まれ、プラン構成、ビジネスモデル、財務と会計などの項目をそれぞれ採点、学生ならではの斬新なアイデアと同時に、実現性や継続性も重視されます。

(2) げんべいビーチサンダルデザインコンテスト

葉山町のビーチサンダルの有名店げんべい商店と関東学院大学人間環境学部人間環境

デザイン学科とのコラボレーション企画として2010年に立ち上がりました。本学在生を対象に公募した、神奈川県内の有企業をイメージしたビーチサンダルのデザイン画をそごう横浜店に展示し、来場者による人気投票で企業テーマごとに最優秀賞を決定、最優秀作品はげんべい商店により商品化され、そごう横浜店にて販売されるという企画です。

2. ボランティア活動（一例）

（1）東日本大震災復興支援ボランティアプロジェクト

本学では校訓「人になれ奉仕せよ」のもと、教育活動の一環として学生ひとり1人が直接、自分の目や肌で現在の状況を感じとり、被災地の人々と、より深く触れ合う機会を持つことで大災害の教訓を学ぶとともに、風化させないようにするため、2011年から毎年夏に宮城県南三陸町で支援活動を実施しています。

（2）社会学部・文学部／多文化共生・地域連携センター

学部の下部組織として、地域の方々と連携したボランティア活動を展開するプログラムを実施しています。在學生は地域ボランティア貢献学生会（CVC）を組織し、地域連携・ボランティアセンターと協働し、自主的な地域福祉ボランティア活動を行っています。社会福祉協議会、町内自治会、地域包括センター、社会福祉施設、地域の小中学校をネットワークで結び、それぞれのニーズに即したボランティア活動を企画・実施しています。

（3）大学間連携災害ボランティアネットワーク

2014年度、東日本大震災をきっかけに、多くの大学が東北の被災地域でボランティア活動を取り進む中で、効果的に、また有意義な活動にしていくための情報交換と連携した活動の取り組みを支援するために組織された「大学間連携災害ボランティアネットワーク」に加盟しました。このネットワークを通じ様々な震災ボランティアに学生を派遣しています。

（4）復興支援インターン

復興庁の共催により、日本全国の大学生が、被災企業で職業体験を実施、職業体験を通じて感じ・学んだ被災地及び被災地産業の現状を全国各地で情報発信することで、被災地産業の復興や被災地全体の進行に繋げることを目的とした復興支援インターンに2014年度より参加しています

3. 体験教室

関東学院大学理工学部では、小中高校の夏休みを利用して各コースの学びを活かした体験教室を開催しており、2016年度は応用化学コース、土木・都市防災コースで実施しました。

応用化学コースは「一日体験化学教室」（共催：日本化学会関東支部）を開催し、中高生が参加し蛍光物質や無電解めっき、液体窒素を利用した実験を行いました。



土木・都市防災コースは、土木工学を学ぶ女子学生と粘土や水彩絵の具を利用した泥団子づくりに取り組む「アートどろ団子with どぼじょ」を開催しました。



また、看護学部は、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ」（後援：日本学術振興会）を開催し、小学生が聴診器を使って自分のお腹の音を聴いてみたり、病気の症状にあわせたカルテづくりなどを体験しました。



これらの体験教室では、教員だけではなくそれぞれの専門分野を学ぶ学生たちが、子どもたちを指導する役割を担当しています。

4. 関東学院スポーツフェスティバル

校訓「人になれ奉仕せよ」のもと、学生が地域社会の発展に貢献することで自主性を学び、人間力の向上を図ることを目的に、本学の地域貢献活動の一つである「スポーツフェスティバル」を、2013年より文化庁連合局主催の「創造祭」、入試センター主催の「ミニオープンキャンパス」と同時開催しています。

毎年、約2,000名の来場者を迎え、スポーツイベントでは、陸上競技部が「キッズ走り方教室」を、ソフトテニス部が「ソフトテニス教室」を、ストリートダンス部 BepHopが「ダンス教室」、チアダンス部が「チアダンス教室」を、それぞれ各クラブ部

員が中心となって実施しました。また、サッカー部は本学と協定を結んでいるプロサッカーチームの横浜F・マリノス協力のもと、小学生を対象に学年別に分けた「サッカー教室」を実施しました。



キッズ走り方教室



ソフトテニス教室



ダンス教室



チアダンス教室



サッカー教室

5. 高大連携

高大連携は高等学校と大学が連携して行う教育活動で、高校生が大学の専門的な授業を受講することで、学習に対する意欲を高めることを目的としており、全国の大学と高等学校の間で実施されています。

関東学院大学は、2004年に最初の高大連携に関わる協定を結んで以来、神奈川県内を中心に27校と協定を結んでおり、協定する高校の生徒は特別履修生としてキャンパス内で授業を受講することができます。

<協定締結高等学校一覧（締結年度順）>

- 神奈川県立金沢総合高等学校
- 神奈川県立横浜桜陽高等学校
- 神奈川県立三浦臨海高等学校
- 神奈川県立横浜緑園高等学校
- 神奈川県立横浜国際高等学校
- 神奈川県立山北高等学校
- 横須賀市立横須賀総合高等学校
- 神奈川県立舞岡高等学校
- 神奈川県立上矢部高等学校

神奈川県立津久井浜高等学校
神奈川県立湘南台高等学校
東京都立六郷工科高等学校
神奈川県立深沢高等学校
関東学院六浦高等学校
神奈川県立横須賀明光高等学校
麻布大学附属高等学校
白鵬女子高等学校
神奈川県立瀬谷西高等学校
三浦学苑高等学校
神奈川県立逗葉高等学校
横浜創学館高等学校
神奈川県立横浜清陵総合高等学校
神奈川県立藤沢清流高等学校
横浜市立横浜商業高等学校
神奈川県立永谷高等学校
湘南学院高等学校
緑ヶ丘女子高等学校

高校生のための出張講義「知のフロンティア」

大学の講義内容を具体的に知りたいという受験生や高等学校の先生方からの要望に応えるために"高校生のための出張講義「知のフロンティア」を実施しています。

「知のフロンティア」では、関東学院大学で開講している講義を高校生向けに分かりやすくアレンジし、大学の講義がどのようなものか体験することができます。

「知のフロンティア」

URL : <http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/index.php/ja/home/social-and-regional-cooperation/business-trip-lecture.html>

情報集中授業

横浜女学院中学高等学校との教育連携に関する一般協定に基づき、本学教員による中・高校生向け情報集中授業を実施しました。

横須賀学院高等学校との連携協定

2017年7月に横須賀学院高等学校と本学は、相互交流を通じて、互いの教育研究の活性化を図り、地域の教育文化の向上に資するため「教育研究交流に関する協定」を締結しました。

8月には大学のキャンパスを利用した「プレカレッジプログラム」の実施や「横須賀学院セミナー」の一環として本学から複数分野の講師を派遣しました。また、双方の図

書館司書を目指す生徒・学生との交流や宗教部門と連携に向けた取り組みを実施しました。

■地域貢献

1. 公開講座

地域に開かれた大学であり続けるために、地域の方々への生涯学習支援の一環として、大学施設を開放して様々な公開講座を開講しています。また、学生を対象に行なっている資格取得講座を受講することも可能です。

社会連携センターURL：<http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/index.php/ja/home/social-and-regional-cooperation/institutions-center/institutions01.html>

2. 施設開放

関東学院大学の施設は、関東学院大学の行事・授業及び課外活動に支障のない範囲で、授業が行われていない土曜日、日曜日、祝祭日、夏期・冬期休業期間等に限り、一般の方へ貸し出しをしております。

また、大学図書館を開放しており、調査・研究を目的とする神奈川県内在住・在勤の20歳以上の方であれば、館内閲覧と貸出が可能です。

3. 無料法律相談

関東学院大学法科大学院では、法律上の問題を抱えた方ならどなたでもご利用いただける法律相談所を開設し、弁護士による無料法律相談を実施しています。